

自己評価報告書

～令和元年度～

(参考)

社会福祉学科・保育幼児教育学科

学校法人たちばな学園

保育・介護・ビジネス名古屋専門学校

(3) 教育活動《社会福祉学科・保育幼児教育学科》

No.	点検項目	自己評価	参考資料
1	教育理念に沿った教育課程が組まれているか	4	ガイドブック
2	福祉や保育・教育の現場が求める人材の育成に必要な学習時間を確保し、教育内容を工夫しているか	4	事業計画書、教育課程表、シラバス、時間割、カリキュラム表
3	福祉や保育・教育の現場が求める人材像を踏まえてカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	カリキュラム表、教育課程表、シラバス、時間割、各種研修の案内
4	職業・実習に関する外部関係者からの評価やニーズをカリキュラムや教育内容の見直しを取り入れているか	4	実習評価、カリキュラム表
5	併修する大学・短期大学部通信教育課程の卒業、資格・免許取得に必要な学習時間を確保し、教育内容を工夫しているか	4	教育計画、教育課程表、シラバス、時間割、カリキュラム表
6	授業見学、授業評価、教員研修等を実施するなどして、教育内容および教員の質の向上に努めているか	4	授業アンケート、授業見学報告書
7	成績評価や単位認定の基準は明確になっているか	4	学生心得、内規 研修会案内文
8	福祉や教育の現場が求める人材を育成するために必要な教員（講師）を確保し、専門性の高い教育を提供できるよう努めているか	4	教員名簿（専任教員要件遵守）

註)「自己評価」は4段階で評価（4＝適切、3＝ほぼ適切、2＝やや不適切、1＝不適切）

【現時点での課題と今後の改善方策】

(1) 幅広い知識と教養を身につけ、問題解決能力とリーダーシップを備えられるよう教育課程・カリキュラムを編成している。併修する大学の卒業や資格・免許の取得を実現するためのカリキュラムと指導体制を体系的に組まれている。

(2) 大学卒業資格、各種福祉資格、教員免許状取得に必要な年限や時間数が確保されている。それ以外に本校独自の科目として、実践教育の時間数を確保している。平成28年度から、社会福祉士の資格課程で介護技術を学ぶ科目、平成30年度からは、保育の資格課程でオペレッタ（小歌劇）を学ぶ科目を開講した。平成30年度は心理の専任教員が増員したことで、非常勤講師が担当していた科目を専任教員へ移行することができ専門科目の充実を図ることができた。令和元年度は、公務員試験対策や各種国家試験対策講座の時間数を増加した。今後もさらに専門職としての実践力を高める授業科目や時間数を充実させるべく検討を続けていく。

(3) カリキュラムは体系的に編成されている。併修大学の卒業や資格・免許取得に必要な科目に加え、専門学

校独自の科目として、各分野の実践面を養う科目を開講している。また、福祉や保育・教育現場の経験者を多く起用して、実践的な職業教育の実現に向けて努めている。また、福祉現場や教育現場における現場実習を通して実践的な職業学習ができる教育内容となっている。今後も実技や実習授業、現場研修の充実を図って、実践力を養える体制作りを努めていく。

(4) 福祉実習、保育実習・教育実習先での実習担当者からの指導内容や実習評価を事後指導や次年度の事前指導の内容に組み入れて活かしている。また、実習先から求められる人材像を参考にカリキュラムや養成内容を見直している。

(5) コースごとに社会福祉士受験資格、保育士資格、幼稚園・小学校教諭免許状を取得するために必要な大学・短期大学部通信教育課程の科目が履修できるカリキュラムとなっている。かつ資格取得に必要な実践学習や試験対策などの専門学校独自の授業が組み込まれている。

(6) 学期末に授業アンケートを実施し、アンケート結果は、担当教員（非常勤講師を含む）に配布している。アンケート結果は、今後の授業がよりよいものになるように活用している。
また、教員研修会を開催し、教育方法に関する学習会が行われている。また、教員相互に授業見学を実施し指導力向上に努めている。関連分野の先端的な内容を学ぶための外部研修会について随時案内している。今後、各専門教員が充実していく中で関連分野の先端的な内容の内部での研修体制も充実させていきたい。

(7) 成績の評価や単位の認定は、学科の内規に定められており、学生に配布する各科目のシラバスに明記している。

(8) 各授業は東京福祉大学から委嘱を受けた要件を備えた教員が担当している。今後さらに授業を充実させるため、募集を継続している。令和元年度には新規の非常勤講師を3名採用した。また、令和2年度に向けて新規の非常勤講師を3名採用した。

(4) 学修成果《社会福祉学科・保育幼児教育学科》

No.	点検項目	自己評価	参考資料
1	就職率の向上が図られているか	4	ガイドブック
2	資格取得率の向上が図られているか	3	事業報告書、国家試験合格率推移
3	退学率の低減、卒業率の向上に努めているか	4	退学率推移
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	「ボランティア部 AIAI」案内
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	就職先訪問報告書、就職ガイダンスシラバス

註)「自己評価」は4段階で評価(4=適切、3=ほぼ適切、2=やや不適切、1=不適切)

【現時点での課題と今後の改善方策】

<p>(1) 令和元年度は平成30年度の反省をもとに、卒業年次生には早めの就職活動を促してきたこともあり、1名を除き3月末までに内定を得ることができた。残りの1名も4月に内定を得ている。公務員合格者を3名輩出することができた。</p> <p>令和2年度は卒業までに全員が内定を得ることができるよう進路指導室と連携を強化していきたい。また、公務員希望者をサポートする体制をさらに充実させていきたい。</p>
<p>(2) 学生が希望の資格を取得できるよう履修や実習のサポートを行うだけでなく、国家資格については受験対策もカリキュラムに組み入れて、総合的に資格取得を支援している。例年、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験は全国平均を上回る合格率が達成できている。また、令和元年度はカリキュラムの見直しを行い、受験対策の授業時間数を増やしたこともあり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格率が平成30年度よりも上昇した。しかし、大学(新卒のみ)の全国平均合格率と本学科の合格率を比較すると、精神保健福祉士はそれを大きく上回っているが、社会福祉士はそれよりも下回っている。今後は新卒者の全国平均合格率を上回るよう取組みを強化していく。</p>
<p>(3) 担任が細やかに声掛けや面談を行い、場合によっては保護者とも連絡を取り合いながら、長期欠席や履修の遅れから退学に結び付くことがないようサポートしている。平成28年度より学生相談室(カウンセリングルーム)を設置し、精神的に不安定な学生のサポートを充実してきた。これらの成果もあり、令和元年度の退学率は平成30年度と横ばいであった。</p> <p>ほぼ全員が、専門学校と大学を同時卒業している。</p>
<p>(4) 在校生のボランティア活動などの活躍については把握できている。卒業生の把握については、実習やボランティアで学生を卒業生の就職先に出す場合などに限られるものの、その活躍について一部把握できている。</p>
<p>(5) 進路指導室が中心となって、卒業生の就職先を訪問し、卒業生の評価、働きぶり、就職先が求める人材等を把握している。訪問によって得た情報を共有し、就職ガイダンスや授業内容に取り入れ、就職先から求められる人材の育成に努めている。今後はさらに就職先への訪問の機会を増やし、就職先との連携を深めていきたい。</p>

(5) 学生支援《社会福祉学科・保育幼児教育学科》

No.	点検項目	自己評価	参考資料
1	学習に対する相談・支援体制が整備されているか	4	学生面談記録
2	学生生活に関するオリエンテーションを実施しているか	4	オリエンテーション配布資料 学生相談室案内
3	実習や就職に関する相談・支援の体制が整備されているか	4	就職ガイダンスシラバス
4	学費に関わる支援体制は整備されているか	4	学生心得、学生募集要項
5	学生の心身の健康を支える体制はあるか	4	健康診断案内、健康調査票
6	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	部・サークル規則、部・サークル登録決裁
7	保護者と適切に連携しているか	4	学生面談記録、保護者会案内
8	卒業生への支援体制はあるか	3	求人票

註)「自己評価」は4段階で評価(4=適切、3=ほぼ適切、2=やや不適切、1=不適切)

【現時点での課題と今後の改善方策】

(1) 各クラスに担任(教員)が配置されており、履修管理や学習の相談ができる体制が整えられている。
(2) 年に2回(前期・後期開始時)には必ずオリエンテーションを実施し、担任・事務職員及びその他関連教員との分担・連携のもと、必要な連絡・指導を行っている。生活に関するオリエンテーションについても、担任がホームルームの時間を利用し、実施している。また、平成28年度より学生相談室(カウンセリングルーム)を設置し、精神的に不安定な学生のサポートの充実を図っている。
(3) 各実習および就職に関しては授業内での指導のほか、随時相談に応じる体制が整えられている。
(4) 学生への経済的な支援については、入学時の特別奨学金制度や入学後の延納・分納制度を設けている。また、日本学生支援機構の「奨学金制度」、「教育ローン制度」が活用されている。平成28年度入学生から授業料免除特待生入試制度が開始した。
(5) 毎年春に健康診断を実施している。再検査が必要な学生に対する指導体制も整っている。また、職員室に救急箱を設置している。授業を実施する校舎には保健室も設けられている。
(6) 部活動やサークル活動を認め、部活動後援費やサークル活動助成金なども確保している。しかし、活動内容は1種類のみで活動人数も少数であるので、今後は更なる充実した活動となるようにしていきたい。
(7) 毎年1回保護者会を開催し、保護者面談を実施している。また、それ以外にも必要に応じて電話連絡や面談等を行っている。
(8) 卒業生からの再就職や資格取得等に関する支援体制については、相談があれば支援をしている。今後は定期的に卒業生の状況を把握する体制の整備も検討していきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献<社会福祉学科・保育幼児教育学科>

No.	点検項目	自己評価	参考資料
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	「ボランティア部 AIAI」案内
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	各種研修の案内、「ボランティア部 AIAI」案内
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の委託等を積極的に実施しているか	3	出張授業依頼文

註)「自己評価」は4段階で評価（4＝適切、3＝ほぼ適切、2＝やや不適切、1＝不適切）

【現時点での課題と今後の改善方策】

(1) 授業や研修プログラムを通して、毎年、地域や福祉施設のお祭りにボランティア等で学生が参加している。しかし、令和元年度は半年間かけて準備をしてきた地域のお祭りが台風のため中止となった。準備したことを発表する機会は次年度以降に持ち越しとなった。

(2) 授業や研修プログラムを通じたボランティア実践を通して、地域や社会に貢献するボランティア精神を持った学生を育てるよう努め、ボランティア活動を奨励している。特に、ボランティア部は社会福祉協議会等からの依頼を受け精力的に地域貢献を続けている。平成30年度からは地域のこども食堂の運営にも携わり活動の範囲を広げている。令和2年度はさらに自主的にボランティア活動を継続する学生をさらに増やしていきたい。

(3) 入学課からの依頼により中学や高等学校へ、進路選択の一助となるよう社会福祉や保育などの出張授業を実施している。今後も積極的に出張授業を実施し、社会福祉や保育に関心を持つ学生の増加に努めたい。